



福中だより

☆☆☆教育目標☆☆☆

希望 創造 潤い

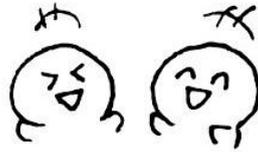
昭島市立福島中学校

令和6年11月1日 NO.7

042-541-2940

創立45年目(昭和55年開校)

よい心を曇らせないために



校長 前川 法彦

先日、合唱コンクールが終わり、福島中学校の二大行事が終わりました。

とても素晴らしい合唱祭だったと思います。歌を聴いて迫力がありました、ぐっときましたと話してくださる方もいました。皆さんは、「仲間とひとつのものをつくりあげた」「心を込めてがんばれた」という誇りと自信をもつことはできたでしょうか。

さて、江戸時代に中江藤樹という学者が「五事を正す」という教えの中で、「人は生まれながらにしてよい心をもっているが、自分勝手な欲望が、そのよい心を曇らせてしまう。そのよい心を曇らせないためにも学問が必要である」と話しています。五事とは、

貌(ぼう)・・・顔・表情 → 優しく和やかな表情で人と接しましょう

言(げん)・・・言葉遣い → 思いやりのある言葉で話しかけましょう

視(し)・・・まなざし → あたたかく優しいまなざしで人や物を見ようようにしましょう

聴(ちょう)・・・よく聞く → 耳を傾けて真剣に人の話を聴くようにしましょう

思(し)・・・思いやり → 真心をもって相手を理解し、思いやりの心で接しましょう

になります。もう400年以上も前の言葉になりますが、思いやりの心をもって、「聴く・話す・行動する」ことは、周りの人とのかかわりの中で、普段から行うことができる、今の時代でも生きていくための土台になると考えられるのではないのでしょうか。

福島中にも、日頃から進んで笑顔で挨拶をする生徒、丁寧な言葉遣いが身に付いている生徒、友達を助けたり手伝ったりする優しい姿を見られるのは大変嬉しいことです。このときの生徒たちは、和やかで、よい表情をしていて、あたたかい雰囲気が伝わってきます。簡単にはできないことですが、自然にできている人が身近にいるのは素敵で尊敬される立派な姿であると思います。ぜひ、いまの自分を振り返りながら、生活をしていく中で、たくさんの方が自分を磨いて成長していったほしいと願っています。